

Praxis

Series

03

新建築

新建築社では、前回のCareer Lectureを改め、Praxis Seriesをスタートさせる。

このレクチャーシリーズでは、

新しい建築や都市に対する概念そのものを誘発、

先導することを目的とし、21世紀における新しいアーキテクチャーの可能性を、「praxis（プラクシス）」という切り口で考察してみたい。

「praxis（プラクシス）」とは、主に鍛錬や実行という言葉に代表される、自然や社会に対する人間の「働きかけ」のことを意味する。

ここでは、その従来の意味を超えて、抽象的思弁に対比するものとしてでなく、思弁を具体化するという意味を内包する概念として捉えたい。

このシリーズを通じて、未来を担う人達に国内外の様々な「現場」

（教育、設計デザイン、建設施工）と触れてもらい、己の拠り所を見つけ、将来の大望を膨らましてもらう場にしたいと思う。

ゆえに、ゼネコン、アトリエ、設計事務所、コンサル、工務店、研究開発・教育機関等といった近代的な垣根を超え、進化する今のアーキテクト像をなぞっていく。

-災害・復興時における建築家の仕事-

災害・復興時に求められる建築家の職能とは何か。

災害・復興時に求められる建築の諸条件は、平常時のそれと違い、材料、技術、コストなどに、様々な制約があり、

また時間の経過とともに現場で求められるものが変化する。

このような条件下で、建築家の職能はどう活かされているのか。

このレクチャーでは、ODA事業における災害復興として、ネパールで活動されている毛利設計事務所の設楽氏をお迎えして、災害・復興時に求められる建築家像についてお話いただく。

-Guest-

設楽 知弘 | 株式会社 毛利建築設計事務所 海外設計部
| NPO法人都市計画・建築関連OV会 理事長

-Moderator-

Kaz 米田 | bureau0-1 代表

2017.12.23 Sta 13:00~14:30

Open 12:30

【会場】
新建築社 青山ハウス 東京都港区南青山2-19-14

【応募フォーム】 参加費無料 定員20人

<https://goo.gl/forms/mB9cRsioiids3LRt2>